地域づくりを企画するためのアイデアB㊙☺K

ワールデン物語

～緑とやさしさを育む
多文化共生コミュニティガーデン～

AIA AICHI INTERNATIONAL ASSOCIATION

ワールデン：ワールド・スマイル・ガーデンの通称。この物語の舞台となる刈谷市一ツ木のコミュニティガーデン（→P.57）です。

もくじ

Page

第1章　ワールデンうまれる　4

STEP1 目的設定 → STEP2 企画立案 → STEP3 連携協働 → STEP4 基盤整備 →

物語の始まりは2012年　5

2013年「コミュニティガーデン」を刈谷でやろう！　7

まずは自治会！足を運び、伝え続け、語り合う！　9

2014年～人、場所、情報、資金、みんなの知恵とチカラを結集する！　11

はじめに

もくじ　1

本書のねらい　3

トピック

ワールデン’ｓギャラリー　13

ワールデン広場組の力作　37

クリスマス会の様子　44

ワールデン’ｓキッチン　51

第2章　ワールデンみんなで育てる　14

STEP5
内容設計

枠組みとステップは
あるけれど、
中身はみんなで
1から考える！　15

ワールデン10のイイね！

1 協働でうまれる力　17
2 特技とリソースを持ち寄る　19
3 みんなが主役！ 主体的に参加する　21
4 とにかく楽しい！ひたすら楽しい！　23
5 「ゆるさ」って大事　25
6 農作業は地域づくりに向いている！　27
7 非日常じゃなく「日常」　29
8 成果は「じゅわじゅわ」あらわれる　31
9 多様性は豊かさ、多様性は強さ　33
10 信じれば叶う！あきらめたらおしまい　35

第3章　未来につなぐ　38

STEP6
発展継続

米作りにチャレンジ、
組織も立ち上げ、
ただ今
発展進行中！　39

10年後の
ワールデン
こうしたい！
夢　45

資料編

数字で見るワールデン　53
2016年度のワールデン　55
ｺﾐｭﾆﾃｨｶｰﾃﾞﾝの可能性　57
妄想中！ワールデン　58
刈谷市一ツ木町の紹介　59
プロジェクトの協力者　61

本書のねらい

1990年の入管法改正を契機として南米諸国からの日系人をはじめ、多くの外国人が来日し、長期間滞在するようになったことで、「多文化共生」が各地域において、大きな課題のひとつとなってきました。こうした社会状況や地域ニーズの変化に伴い、各地の国際交流協会でも様々な多文化共生事業を行っていますが、「外国人の参加者がなかなか増えない」「いつも同じ顔ぶれしか集まらない」などの共通の悩みも抱えています。真の「多文化共生」を推進するためには、「地域づくり」の視点をもち、多様な人々を巻き込む仕掛け作りが求められています。

そうしたことを踏まえ、当協会では2013年から刈谷市一ツ木地区の皆さんと「コミュニティガーデン」の取り組みを多文化共生のモデル事業として進めてきました。「ワールド・スマイル・ガーデン（略称：ワールデン）プロジェクト」は、地域のことに詳しくない外国人も、そしておとなも子どもも参加しやすい「ガーデン作り」に年間を通して取り組む中で、気軽に地域づくりに関わっていただけると考えています。いろいろな方たちに助けていただきながら、やったことのないガーデン作り、野菜や米作りを通して新たな地域づくりの事業にチャレンジしたのです。まだまだ課題もあり、道半ばという段階ですが、これまでの4年間の活動をふりかえり、プロセスをまとめたものが本書です。

「コミュニティガーデン」という手法はあくまで1つのモデルであり、そこにこだわる必要はまったくありません。地域にあった手法を選ぶことが大切です。ただ、このプロジェクトの「プロセス」や、その中で見えてきた、いくつかの「ポイント」は、どんな企画を進める上でも役に立つのではないかと思っています。特に、第2章にまとめた「ワールデン10のいいね!」は、わたしたちが改めて実感した「大切なこと」です。多文化共生や地域づくりに関わる多くの方たちの参考にしていただけたらとてもうれしいです。また、本書全体を通して、わたしたちが過ごした楽しい時間を共有していただき、いろいろな地域で新しいプロジェクトが誕生するきっかけになれば、さらにうれしいです。

最後に、このプロジェクトを一緒に進めていただいた愛知県刈谷市一ツ木地区のみなさん、刈谷市、（特活）NIED・国際理解教育センター、（一財）自治体国際化協会を始め、ご協力いただいた多くの方たちに心からお礼を申し上げます。

2017年2月

公益財団法人　愛知県国際交流協会

第１章　ワールデンうまれる

STEP1　目的設定「達成したいこと、めざすものは何か」

STEP2　企画立案「目的達成のため何をするのか、どこでするのか」

STEP3　連携協働「誰と一緒にするのか、どうやって出会うのか」

STEP4　基盤整備「プロジェクトを進める基盤はどう作るのか」

STEP1 目的設定

「達成したいこと、めざすものは何か」

- ✔ 何のための「国際交流」？ 何のための「多文化共生」？
- ✔ この事業を通して何がどうなるといい？
- ✔ この事業を通してどんな課題が解決するといい？

物語の始まりは2012年！

紛争地域で敵味方だった人々のわだかまりを溶かした「コミュニティガーデン」

刈谷市のワールド・スマイル・ガーデン。
それは、1冊の本との出会いから始まりました。

『平和の種をまく ボスニアの少女エミナ』
大塚敦子著 岩崎書店

1992年に始まったボスニア戦争終結後も
ボスニア・ヘルツェゴビナに住むボスニアク（ムスリム人）とセルビア人の
間に残る憎しみとわだかまり。

それをなんとかしようと、アメリカのNGOが、
ともに畑を耕し野菜を育てる
「コミュニティガーデンプロジェクト」を立ち上げました。

そこで知り合ったボスニアク（ムスリム人）のエミナとセルビア人のナダ。
別々の居住区に住んでいた二人は、
コミュニティガーデンで知り合い、大の仲良しになります。

二人は、コミュニティガーデンがなかったら
出会うことはなかったでしょう。

ある時、
「もう二度と戦争が起きないためにはどうしたらいいと思う？」
という問いかけにエミナは答えます。

「ナダと戦うなんて考えられない。みんな友達になればいいんだよ。」

国際交流、多文化共生はなんのため？

地域に住む外国人の数が増え、いろいろなところで
国際交流のイベントや多文化共生の講座などが開催され、
「外国人」に対する人々の意識は少しずつ変わっているはずですが、
それが地域や社会に、目に見える形で現れてこない
「もどかしさ」を感じたことはないでしょうか？

以前、外国人住民が集住する団地に住む方から言われました。

「こうした講座は重要だと思う。
国際交流協会が一生懸命仕事をしてくれていることもわかる。
でも、私が住んでいる団地は20年前とまったく変わっていないよ。」

いくら講座を開催しても、何度イベントをやったとしても、
外国人住民と日本人住民との関係性がより良くなり、互いに
「確かに地域が暮らしやすくなった」と実感できるものにつながらないとしたら、
何のための講座やイベントなのでしょう。

多文化共生に関心のある人もない人も、
地域づくりに関わっている人も自分には関係ないと思っている人も、
みんなで一緒に暮らしやすい地域を創っていくこと！

そのために何をしたらよいのだろう。

悩んでいるときに出会ったのが
「コミュニティガーデン」だったのです。

STEP2 企画立案

「目的達成のために何をするのか、どこでするのか」

- ☑ 目的を達成するためのツールには何がある？
- ☑ 目的を達成するため、具体的に何をどこでする？
- ☑ それは地域のニーズに合う？

2013年 「コミュニティガーデン」を刈谷でやろう！

「コミュニティガーデン」というツールの可能性

「何をめざすのか」が明確になったら、
地域の状況やニーズに合わせてツールや内容を考えるのが本来の流れですが、
ワールデンプロジェクトの場合は、
「コミュニティガーデンを通して多文化共生の地域づくりを進める」ということで
「コミュニティガーデン」というツールが最初に決まっていました。

ボスニアだけではなく、いろいろな場所で取り組まれているコミュニティガーデンが、
地域における様々な良い変化を創り出していることを知り、
私たちの目的を達成するツールはこれだ！と思えました。

「国際交流」とか「多文化共生」と高らかに声をあげるのではなく、
みんなで何かをやりながら、知らないうちに暮らしやすい地域になっている…
そんな活動に「野菜づくり」はぴったりです。

問題は、それを「どこで」やるか。

出典：『コミュニティガーデナー養成講座テキスト』
著作団体：NPO法人NPO birth、NPO法人GreenWorks

ツール、ニーズ、条件にぴったりの場所、刈谷市一ツ木との出会い

最終的にコミュニティガーデンプロジェクトの実施場所を
刈谷市一ツ木に決定したのは、次のような理由からでした。

- ○ 刈谷市は多文化共生に力を入れていて、NIED・国際理解教育センターと協働で国際化・多文化共生推進計画を実施しており、地域づくりのノウハウを持っていたと同時に、担当者もプロジェクトの提案に前向きだった。
- ○ 刈谷市は多文化共生に関するアンケートを実施しており、地域の現状やニーズの把握ができていた。
- ○ 刈谷市やNIED・国際理解教育センターと（公財）愛知県国際交流協会は、普段から顔の見える関係が構築できていた。
- ○ 市内でも外国人住民が最も多く住む一ツ木地区は、多文化共生事業のモデル地域となっていた。
- ○ 一ツ木地区には地域のつながりが残り、コミュニティガーデンを実施するのにも適した規模だった。

こうして刈谷市の中でも最も外国人住民が多く住む一ツ木地区に、
コミュニティガーデンを設置することを目指すことにしました。

早速、刈谷市、NIED・国際理解教育センター、愛知県国際交流協会の3者で
プロジェクトの目的を改めて確認共有し、
プロジェクトの大枠作りへと進むことになりました。

ステップ1
みんなで考える

1. 夢を語り合おう
2. 場所をよく調べよう
3. コンセプトと名前を決めよう
4. ガーデンデザインを考えよう
5. 植物を選ぼう

STEP3 連携協働

「誰と一緒にするのか、どうやって出会うのか」

- ☑ 地域にはどんな人々がいる？ 団体がある？
- ☑ プロジェクトに関わってほしい人は誰？
- ☑ 関わってほしい人はどうやって集める?出会う？

まずは自治会！　足を運び、伝え続け、語り合う！

地域の要！一ツ木自治会と地域団体への説明会から始める

ワールデンプロジェクトの主役は地域住民！....とはいえ、
どうやって協力を求めたらよいのでしょう。

まずはともあれ「ツテのあるところから」ということで、
一ツ木の自治会、婦人会、こども会などに
「コミュニティガーデンを一緒にやりませんか」と呼びかけたのは2013年のこと。

すでに刈谷市国際化・多文化共生推進計画のモデル事業が、
一ツ木で進められていたものの、「コミュニティガーデン」という新たな活動について、
住民のみなさんの理解を得ることは、そう容易なことではありませんでした。
まずはこれから一緒に始めたいと思っている
「コミュニティガーデンプロジェクト」についての説明会を開催することにしました。

刈谷市と自治会との日頃の関係から、
呼びかけにはまずまずの数の住民の方に集まっていただけたものの、
「いったい今度は何が始まるの？」
「よくわからんけど、呼ばれたからとりあえず来てみた」
と、会場内には「はてなマーク」がいくつも飛びかっていました。

すでに関係性のできている刈谷市やNIED・国際理解教育センターとは違い、
一ツ木住民の方とはこれが初顔合わせとなる愛知県国際交流協会です。

愛知県国際交流協会の担当者は「まずは仲良くなりたい！」と、
一ツ木で実施される多文化共生イベントにできるだけ参加し、
コミュニケーションをとるようにしました。
そこで少しずつコミュニティガーデンの趣旨を伝えたり、
ちらしを作り、参加のお誘いをしたりしました。

勉強会や検討会を通して少しずつ高まる関心と深まる関係性

次に、「コミュニティガーデン」について知り考えるための会を企画しました。
「なんだか楽しそうね」「子どもたちの教育の場にもなりそうだね」
「最近は隣近所のことがわからなくなってるから人が集まるのはいいんじゃない？」
少しずつ少しずつ興味関心がわいてきます。
そして次第に「どんなガーデンにする?」と、住民の皆さんも私たちも
夢を語るのが楽しくなってきました。

でも、肝心な畑が決まらないと、検討会を越えた現実的な話には進めません。
勉強会や検討会と並行して土地探しにも奔走しましたが、
いくつか候補はあがるものの、見に行くと不便だったり、狭かったり、
規制があったり、費用がかかったり…なかなか条件に合う土地が見つかりません。

その繰り返しに「やっぱり無理なんじゃないの」とあきらめムードが広がり、
住民のモチベーションもやや下がり気味。どうしたものかと思っている中、
「もしかしたら、土地を使わせてもらえるかもしれない！」
一ツ木自治会長から連絡が入ったのは、
年が明けた2014年3月のことでした。

STEP4 基盤整備

「プロジェクトを進める基盤はどう作るのか」

- ✔ プロジェクトを進める上で必要なものは？
- ✔ 今ある資源（ハード、ソフト、人的リソース）は？
- ✔ あるものをどう活かす？　ないものはどう補う？

2014年～　人、場所、情報、資金、みんなの知恵とチカラを結集する

念願の畑が見つかり、いよいよプロジェクト本格始動！
二次元から三次元へ!

その土地は約500 ㎡。
広すぎず狭すぎず、ちょうどいい広さで、土もよく、駅から近く、用水路もあって、
幼稚園や小学校の通学路にもなっているところ。

地主さんはこのプロジェクトの趣旨に賛同してくださり、
「活用していただけるのなら」とご好意で貸していただけることになりました。

理想どおりの土地が見つかり、俄然モチベーションアップ。
「名前を決めようよ！」の声があがります。
みんなでアイデアを出し合い投票した結果、
ガーデンの名前は「ワールド・スマイル・ガーデン（通称：ワールデン）」に決まりました。

また、専門家のアドバイスもいただきながら、
畑エリア、花エリア、広場エリアという3つのエリアに分けて
整備することも決まりました。

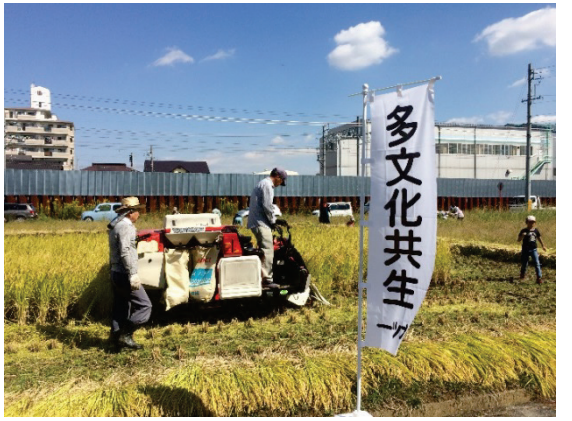
必要なものは、みんなの強みと智恵を結集して整える！

事業を進めていくためには、畑以外に、人、モノ、場所、情報、お金など、
必要なものがたくさんあります。
ワールデンプロジェクトの成功には、多くの住民の方の参加が必須ですし、
特に多様な国籍の人に集まってもらうためには、広報に工夫が必要です。
いろいろなことを決めていくためには会議も不可欠で、そのための場所が必要。
畑を作るためには物資が必要。それらを確保するには「資金」が課題となります。
プロジェクト立ち上げに必要な資金については、
刈谷市と愛知県国際交流協会が自治体国際化協会から助成金をいただくなど
何とか予算を確保しましたが、それも永遠にあるものではありません。

迅速な行動力や人集めのくちコミやネットワークの協力を得ることに関しては
市民のチカラに勝るものはありません。
事務的作業や広報や市内の状況把握は刈谷市が得意。
住民主体の参加型会議のプロセスデザインや記録の積み上げは、
NIED・国際理解教育センターがお手のもの。
多文化共生に関する経験値や多言語による情報発信については、
愛知県国際交流協会が頑張ります。

予算が確保されているうちになるべく設備投資をし、
大きな農具はメンバーの持ち物をシェアさせてもらい、
苗は個人で育てているものの余剰分を融通しあい、
2015年から始めた田んぼへの寄付を募り、
寄付者に「ワールデン米」を進呈することも始めました。

いつまでも行政の予算を確保できるわけではないこと、
最終的には住民主体の自立した活動を目指すことを共有し、
ないものねだりではなく、それぞれの特技や技術や強みを持ち寄り、
なるべくローコスト、ローメンテナンスを合い言葉に、知恵を出し合い、
助成金にもチャレンジし、今も現在進行形です。



ワールデン’s ギャラリー

→ 刈谷市の『国際化・多文化共生』かわら版（ワールデン特集号）多言語のうちタガログ語版です。

KARIYA GLOCAL LETTER

Inilathalanong Disyembre 31, 2014

"Internasyonalisasyon/Multicultural symbiosis" Kawara Newsletter, Lungsod ng Kariya

KARIYA GLOCAL LETTER

Ay isang babasahin na nag-uulat sa sitwasyon ng immunghahing 3 mahahalagang proyektong pinagtutulungan para sa "Internasyonalisasyon ng Lungsod ng Kariya/Pamo sa pagkusolong sa Multicultural symbiosis" (Binalag noong Marso, 2012)

[Model district/School district project] Hitotsugi multicultural symbiosis community garden "World Smile Garden" proyekto ng 2014

Abril 2014 sa Hitotsugicho Lungsod ng Kariya, Sa pamamagitan ng sama-samang pagsasaya sa pagtatanim ng mga gulay at bulaklak, pinuksan ang "World Smile Garden" na magsusulong ng multicultural symbiosis!

Ano ang World Smile Garden*?! *Pinaikseng tawag: "Wārudēn"

Ang Wārudēn ay isang community garden para sa lahat kung saan magkakasamang nagsasaya ang iba't ibang mga lao sa pagtatanim ng mga gulay at bulaklak, nagpapalitan ng mga talum at kultura sa kani-kanilang bansa, naghahanap ng magging kaibigan. Wala itong pinipiling nasyonalidad, kasarian, edad, may kapansanan man o wala.

Ang Wārudēn ay nagsasagawa ng mga aktwal na pagtatanim at pagdiliwang ayon sa plano matapos na ito ay pag-usapang mabuti ng iba't ibang lao na nanninirahan, naglalabaho, nag-aaral sa Hitotsugicho. Kahit sino ay maaaring sumali sa mga sandiwa oastitibon. Halina sumali na kayo!

Mga pangyayari sa World Smile Garden simula Agosto hanggang Nobyembre 2014

Sa Wārudēn, mayroong "taniman" na nakatutuwang pagtatanim ng mga gulay, "planter" na pagtatanim ng mga bulaklak, at "bakanteng lote" na magagamit sa iba't ibang okasyon.

Kasunod na tinatanim sa karamihan ng "taniman" sa Wārudēn hanggang sa kasalukuyan, ay mga gulay sa tag-init tulad ng kamatis, talong, mais, paliwan, pipino, edamame, mani, sili, mga gulay sa tag-lagas tulad ng kalabasa, karrote, karot, mga gulay sa tag-lamig tulad ng mustasa, spinach, repolyo, pelsay baguio, lettanos, daikon, broccoli, at prutas na strawberry.

Sa mga "planter" na nasa paligid ng taniman ay tinatanim naman ang napapanahong bulaklak at limon, dalandan, blueberry at iba pa na inyong kasalinan.

Sa "bakanteng lote" naman sa timog bahagi ng taniman isinasagawa ang mga pagdiliwang, maaari rin na mauso para magpahinga o kaya ay makipag kuwentuhan sa mga bench na nasa iba't ibang parte ng taniman.

Taniman ng gulay | Planter ng bulaklak | Bakanteng lote na magagamit sa iba't ibang okasyon

*Ang "GLOCAL" ay binuhe sa pinagsamang GLOBAL (pandaigdigan) at LOCAL (lokal), hinangahulugan ito ng "Internasyonalisasyon ng komunidad/Multicultural symbiosis", "Mabawalang pag-kapitagawa sa komunidad".

KARIYA GLOCAL LETTER

Mga pangunahing pangyayari sa World Smile Garden

Binuksan ang Wārudēn noong Abril 2014! Ipinakikilala ang mga nangyering aktibidad at pagdiriwang at iba pang mga pangunahing pangyayari.

Mayo 31, 2014- Pagtatagay ng taniman at pagtatanim ng mga gulay na pang taq-init

Agosto 31, 2014 - Maliit na piyesta ng pag-aani sa tag-init

Nobyembre 9, 2014 - Piyesta ng pag-aani sa Tag-lagas

Mga pangyayari hanggang sa pagbubukas ng Wārudēn at Kasalukuyang sistema ng aktibidad

Sa umaga ng unang Sabado ng bawat buwan ay araw ng sama-samang paggawa sa Wārudēn!

Ayaw mo bang makipag-saya sa pagtatanim ng mga gulay at bulaklak kasama ang mga taong may iba't ibang nasyonalidad at kultura sa World Smile Garden?

Pagtatanong / Multicultural Center, Aichi International Association(AIA) facebook World Smile Garden Hanapin sa

Hour: Monday to Saturday 10:00 to 18:00 (English: Monday to Friday, 13:00 to 18:00)

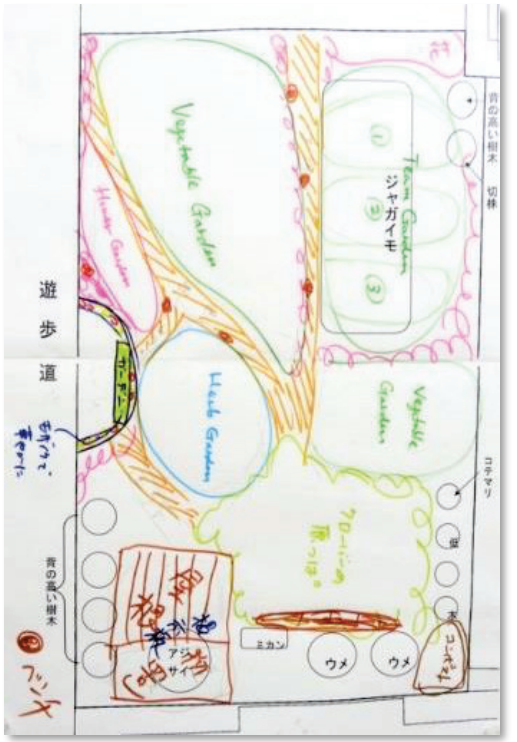
TEL: 052-961-7662 / FAX: 052-961-8045 E-mail: soudan@aia.pref.aichi.jp

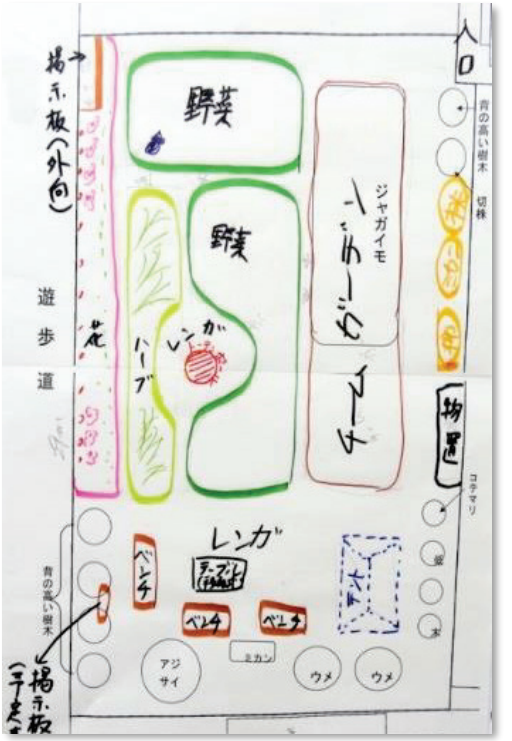
Makisita ng sa aming Facebook page ang mga gawain at gulay na mga aktibidad!

※Ang proyektong ito ay, isinagawa sa pamamagitan nang pagtulong ng CLAIR (Council of Local Authorities for International Relations)

[Editorial komite: Nagoya Institute of Education for Development]

→ どんなガーデンにしたらよいか話し合った時の4つのグループのアイデアです。





第２章　ワールデンみんなで育てる

STEP５　内容設計「具体的なプロセスはどう作り、どうつなげるのか」

＜ワールデン10 の いいね！＞

1　協働でうまれる力
2　特技とリソースを持ち寄る
3　みんなが主役！主体的に参加する
4　とにかく楽しい！ひたすら楽しい！
5　「ゆるさ」って大事
6　農作業は地域づくりに向いている？！
7　非日常じゃなく「日常」
8　成果は「じゅわじゅわ」あらわれる
9　多様性は豊かさ　多様性は強さ
10　信じれば叶う！あきらめたらおしまい

STEP5 内容設計

「具体的なプロセスはどう作り、どうつなげるのか」

- ✔ 目標は何年で達成する？ 中期と短期のビジョンは？
- ✔ 全体のプロセスデザインと1つひとつのプログラムデザインは？
- ✔ プロセスは誰がファシリテートする？

枠組みとステップはあるけれど、中身はみんなで1から考える！

うきうき期、わくわく期、るんるん期というプロセスデザイン

愛知県国際交流協会では、当初から決めていたことがありました。
それは、最終的には住民主体の活動として、
ワールデンプロジェクトが地域に根ざし続いていくこと。
そのために、少なくとも5年はこのプロジェクトをサポートしようということ。
ワールデンプロジェクトでは5年のプロセスを3期に分けて、
各期ごとの目標を決めました。

＊1･2年目「うきうき期」…とにかくたくさんの人を集めよう！
＊3･4年目「わくわく期」…地域住民が主体となる仕組みを作っていこう！
＊5年目　「るんるん期」…ワールデンを新たな活動が始まる拠点にしよう！

いつも大切にしてきたことは、みんなで考え、みんなで作り、みんなで楽しむこと。
１からの参加型で対話を大切にし、誰もが発言しやすい場を作ること。
想いと場と空間を共有すると、関係性が深まります。
課題と関心を共有すると協力が生まれます。

ワークショップ形式の実行委員会と畑での合同作業を月１回定例化

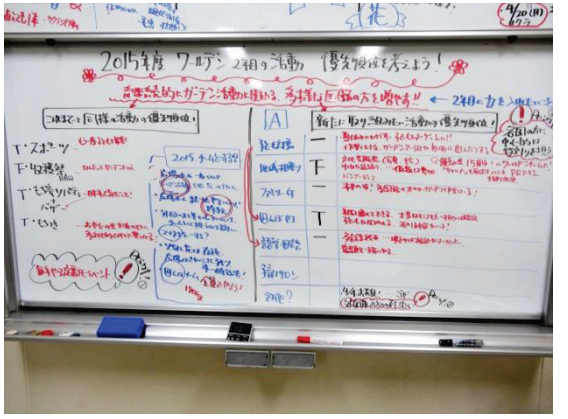
定期的にみんなで集まり話し合うことが大事！ ということで、
月１回平日夜２時間半の実行委員会を定例化しました。
プログラムの準備とファシリテート、会議の記録作りは、
NIED・国際理解教育センターに担ってもらいました。

「どんなガーデンにしたいか」 から始まり、
「そもそも多文化共生とは何か、何のための多文化共生か」
「ワールデンでしたいこと・できることは何か」
「3年後に地域がどうなっているといいか」
「そのために今年は何に取り組めるといいか」
「外国籍の人々がワールデンに関わるようになるためにはどうしたらいいか」
など、実行委員会には毎回テーマとねらいがあります。

話し合う時は、小グループになって、模造紙に意見をまとめ、発表します。
批判ではなく質問、否定ではなく提案が合い言葉。
意見が分かれることは、視点を変えたり、メリットデメリットを比較して検討します。

忙しく活動するようになると、つい目先のことやイベントの準備にあくせくしがちです。
でもそのつど「ワールデンのミッションは何か」に立ち返り、
ワールデンは単なる畑づくりを楽しむ会ではなく、ワールデン活動を通した
多文化共生のまちづくりなのだ、とみんなで確認しあいました。

ほどなくして、月１回（夏場は月２回）の畑での合同作業も定例化されました。
ワールデンの作物や植物の賑わい、広場の格別の居心地の良さは、
合同作業日以外でもワールデンを訪れ、自主的に水やりや草とり、
大工仕事やメンテナンスなどに惜しみなく力を注ぐメンバーのお陰です。



いいね！

プロジェクトの具体的なプロセスをつくる上で、ポイントになったことを『10のいいね！』でご紹介しましょう！
⇒ P.17～36

いいね！1　協働でうまれる力

市民×行政×NPO
強みも立場も異なるわたしたちが
ひとつの想いを共有し、
それぞれの強みを活かしあう。

正直、きれいなこと
ばかりではありません。
理解が難しいことや
歯がゆい思いをすることも、
もちろんあります。

それでも、対等に・正直に
関わる中で、相互理解もすすみ、
1＋1＋1が5にも10にもなるような、
そんなわくわくが生まれています。

ひとりではできないけれど、
みんなと一緒にならできる気がする。
協働から生まれる力が
プロジェクトを支えています。

対等につながる 市民、行政、NPO

わたしたちの「まち」にはいろいろな人が暮らしています。誰もが気持ちよく、誇りと愛着を持って暮らすことのできるまちにするためには、みんなの智恵とチカラが必要です。

わたしたちのワールデンは、一ツ木町住民、刈谷市、NIED・国際理解教育センター、愛知県国際交流協会の4者が対等な立場で協働しています。

それぞれの「できること」と「できないこと」を正直に伝え合うことで、押しつけや強制ではなく、互いの立場や想いを尊重し合いながらプロジェクトを進めてきました。

地域の中で協力者を探す

行政とNPOとの協働の話がまとまり出したところで、わたしたちはまず、「一ツ木自治会」に協力を求めることから始めました。一ツ木自治会は、地域の人々をつなぎ活発な地域活動を牽引する中心的存在でした。また、当時は刈谷市国際化・多文化共生推進事業のモデル地域として、多文化共生のまちづくり活動が始まったばかりの時でした。

地域に「行政が持ってくる話」の数は多く、自治会としても精査が必要となります。この目新しい「コミュニティガーデンを一緒に作りましょう」という自治会への話に、地域のみなさんの手放しの賛同が、最初からあったわけではありません。

何度も説明会を開き、コミュニティガーデンについての勉強会を開催してプロジェクトと協働の意義をお伝えしました。

また、コミュニティガーデンを開設する土地も、地域のみなさんの協力がなければ見つかりませんでした。土地探しは難航しましたが、土地が見つからない中でも勉強会を繰り返し、コミュニティガーデンの意義と可能性を知り、人と人を、人が人を、つなぐまちづくりであると賛同していただき、地域住民を中心とした協働のかたちができていきました。

協働は目的ではなく手段

① 地域における経験値、信頼に根ざしたネットワークがあり、フットワークの良さという強みを持つ市民。
② 公的な根拠と使命感を持ち、多文化共生のための事業を立案、予算の確保や事務力に長けた行政や公的機関。
③ 住民主体・行政協働のまちづくりのプロセスを支援し、想いを形にする方法論を持ったＮＰＯ。

それぞれの強みを活かし、足りないところはカバーしあいながら、自治会・地域の人々、行政、公的機関、ＮＰＯとの協働だからこそ創ることのできる場・ワールデンが生まれ、4者の協働は徐々に徐々に歯車が合い、現在の活動につながってきました。

「協働」の形は一様ではありません。また、全てのプロジェクトで協働が必要なわけでもありません。プロジェクトを行う上で、協働の必要性や適切な協働相手、そして協働の方法を考えることが大切です。

協働者としての外国人を見出す

- **多文化共生の地域づくりを進めるうえで、協働者の中に外国人住民も加わっていることが大切になります。**
- **どのような機会を作れば、外国人住民の参画が進むのか？プロジェクトのどの部分で彼らを活かすことができるのか？ワールデン実行委員会にも外国人住民が加わっていますが、より多くの外国人住民が主体的に参画できるような仕掛けや仕組みを考え、実行していくことが必要だと考えています。**

いいね！2 特技とリソースを持ち寄る

ワールデン活動に「必要なもの」は
すべて地域にありました。

市民、行政、NPOの協働が
それぞれの強みを活かしあうように、
メンバーがそれぞれの
特技やリソースを持ち寄ることで
活動はどんどん豊かになりました。

活動に必要とされる力を持った
メンバーが加わるという流れも。

ワールデンは、
地域住民の個別の強みを活かした
地域の場へと成長してきています。

地域はリソースの宝庫

開園間もないころは、ワールデンを訪れる度にその変化に驚きました。前回まではなかった看板やアーチが完成していたり、畑が耕されていたり、色とりどりの花が植えられていたり……。

会議や作業の中で、みんなで話し合い考えた、ワールデンに「あるといいもの」や「できるといいこと」。どれもこれも、メンバーがそれぞれの特技やリソース、時間を活かして実現してきました。

<ワールデンメンバーの特技やリソース例>

- 野菜や米づくりのノウハウと農機具
- 野菜をおいしく調理する腕前
- 設備づくりに必要な木材や端材
- 花やハーブに関する知識
- ロゴや写真記事作成のデザイン力
- マイタケハウス、ベンチなどの工作
- 外国語による通訳
- イベントの司会進行

みんなの「できる！」と「したい！」が場をつくる

ワールデンは、更地からのスタートでどのような場をつくるかも、みんなで話し合うことから始まりました。ゼロからつくっていけるということが、関わることの楽しさと主体的な関わりを生みました。

そして、畑や広場づくりに必要な、自由に使える資金が少なかったこともポイントになりました。

資金がないことで逆に、一人ひとりの、この場で「できる！」、この場をつくるために「したい！」という想いと知恵を引き出し、無理のない範囲でそれぞれが特技とリソースを持ち寄ることや、できる人に頼んでみるということにつながってきました。

「つながり」も大切なリソース

メンバーが持ち寄るものは、目にみえるスキルや道具だけではありません。子どもが幼稚園や学校に通うメンバーは、子どもたちやママ友パパ友のつながりを活かして、活動に参加するメンバーを広げています。

その他にも、メンバーがつながりをもつ地域の別組織やグループ（自治会、婦人会、子ども会、防災グループ、地域の企業など）との架け橋となり、地区の運動会に「多文化共生チーム」として参加するなど新たな協働や活動が生まれてきました。

また、ワールデンでは「外国人リポーター」と呼ばれるメンバーがいます。中国語やポルトガル語を使って、SNSで多言語情報を発信したり、活動時の通訳を担ったりします。外国人リポーターが外国人と日本人をつなぎ、また、コミュニティと地域をつないでいます。

リソースは地域から引き込む、継承する、共有する

- **ワールデンでは、活動に必要なリソースがメンバーの中にない場合、それができる地域の人を活動に巻き込んでいくという流れも生まれてきています。**
- **活動の中でそれぞれの特技を継承し、みんなで共有することで、一部のメンバーに負担が集中することを避けたり、活動を継続することができるようになります。**

いいね！3 みんなが主役！主体的に参加する

始めたのは、
地域以外の人だったかもしれない。
でも、その後を決める話し合いは、
地域のみんなが主役だった。

悪く言えば
「乗せられた」のかもしれない。
でも、乗りかかった船は、
みんなが船漕ぎを担っていた。

その主体性のポイントは、
立ち上げ当初から、そしてゼロから。

毎月のように開催した
実行委員会で一人ひとりが
対等に意見を出し合って、
ワールデンを作り上げてきたことです。

予定調和なしの参加型の実行委員会

ワールデン活動のメンバーの情報共有と意思決定の場としての「実行委員会」は、概ね月１回、平日の夜18:30～21:00に行ってきました。その特徴は、①基本たたき台は用意しない、②対話を促す模造紙を使ったグループワーク、③ホワイトボードへの記録による結果の見える化です。

年齢、性別、国籍に関係なく一人ひとりが対等で尊重される場。何より、みんなが楽しそうで、真剣で、笑顔があふれる会なのです。「一言も話さず帰る」「話し合いの結果を理解せずに帰る」というありがちな会議とは無縁です。

みんなで話し合い、みんなで決めて、みんなで行う！

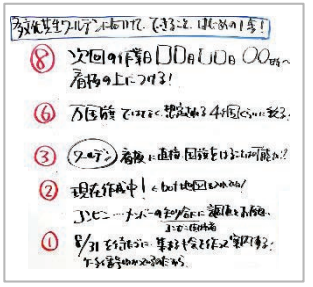
実行委員会では、右表および下記のとおり、ワールデンに関わる殆どすべてのことをみんなで話し合い決定しました。「自分たちが十分に話し合い決めたことにはオーナーシップ（主体性）が生まれる」という説を体現するように、活動は進んでいきました。

- 「1 当初設計」…土地決定後のワールデンのデザインや設備の検討
- 「2 作業関連」…畑組・花壇組・広場組などチーム検討した作業の計画やふりかえり
- 「3 催事関連」…収穫祭や田植え、合同作業後のプチ収穫祭などの企画やふりかえり
- 「4 年間計画」…1年間のふりかえりと次年度の計画立案
- 「5 共生実現」…ワールデンや地域での多文化共生のビジョンや手立ての検討
- 「6 体制予算」…ワールデン活動の運営を行う体制や収支の検討

考え続ける「地域の多文化共生のために！」

ワールデン活動がめざす「地域の多文化共生」は、一朝一夕には実現しない課題です。実行委員会でも、例えば下記のように何度も議題に挙げ、真摯に考え続けています。

- 多文化共生のワールデンを育てる私たちの心掛け
- 多様な国籍の人が集まるワールデンにするアイデア出し
- 一ツ木地域の3年後の多文化共生のビジョン
- ファミリーガーデン&外国人巻き込みチームによる検討
- 多文化共生のまちづくりへとつながるワールデンの旗印
- 外国人住民との関わり方・つながり方の勉強会



ワールデン実行委員会一覧

	1 当初設計	2 作業関連	3 催事関連	4 年間計画	5 共生実現	6 体制予算
2014.第1回	○				○	
第2回	○	○				
第3回	○	○			○	
第4回	○	○				○
第5回		○	○		○	
第6回		○	○		○	○
第7回		○	○		○	
第8回		○	○		○	○
第9回				○	○	○
第10回		○		○		○
2015.第1回		○		○	○	○
第2回		○	○			
第3回			○		○	
第4回		○	○		○	
臨時				○	○	○
第5回			○	○		○
第6回		○	○	○		○
第7回		○	○			
第8回		○	○			
第9回		○	○			
第10回			○		○	
第11回			○		○	○
第12回				○		○
2016.第1回			○	○		○
第2回					○	○
第3回			○			○
第4回			○		○	

会議運営も住民主体で

- **行政やNPOが担うことの多い会議の進行や記録作成を、住民が担うようにしていくことで、場所や時間の制約も減り、限られた時間で行う会議がより有意義なものになります。**

いいね！4 とにかく楽しい！ひたすら楽しい！

“何だかんだいっても、
最後は楽しい！”

ワールデン活動をしていて、
メンバーの笑顔や
参加の様子から、
こんなメッセージを
受け取っています。

「楽しい！」と感じられることが、
多くの人の継続した
活動参加につながっています。

人が集まり、わいわいできる

ワールデンは、畑作業も会議の時も、いろいろな話や想いが飛びかい、わいわいしています。世代、性別、国籍などの異なる多様な人が、共通の想いを持って集う場は、なにより楽しいものになります。

それに畑では、一緒に作業をして汗をかいたり、季節の移り変わりや植物についていろいろな発見があったり、収穫物を調理してみんなで囲んだりと感動が満載！ また、ワールデンで知り合った子どもたちが、一瞬で打ち解けて笑顔で駆けまわり、野菜の収穫に目をキラキラさせて楽しんでいる姿を見ているのも、わたしたちおとなの楽しさであり、喜びです。

「わたし」を活かすことのできる場

畑も会議もみんなの手で作る「みんなが主役！」のワールデンでは、それぞれの想いや考え、そして特技を表現する場や機会があります。

参加型の会議では、だれでも自分のアイデアや想いを発言することができ、それを受け止める雰囲気があります。『ワールド・スマイル・ガーデン』の名前は、小学生からのアイデアでした。

自分の意見を受け止めてもらえることや、特技を思う存分発揮できること、そしてそれがワールデン活動をつくりあげていると感じられることが、この活動に関わることの楽しさのひとつになっています。

場もイベントも一緒につくる

ワールデンのイベントには、仕掛けがあります。参加者は受付を済ませると、まず畑作業やイベントの準備を一緒にしてもらいます。「働かざる者食うべからず」は冗談ですが、参加者一人ひとりにも役割があり、そのイベントを一緒になって作ってもらいます。

一緒に作業することを通して、みんなでつくりあげる楽しさや、“役に立っている”という喜びも感じられます。こうして参加者一人ひとりが、イベントやワールデンという地域の場をつくる一端を担うことで、ワールデンや地域への愛着も生まれてきます。

だれもが役割を持ち、「わたし」を表現できる機会をつくる

- **主体的に関わる時、自分の力を発揮できる時、わたしたちは楽しさを感じます。**
- **より多様な参加者を増やしていくためにも、外国人住民にとっても、この楽しさを感じられるような企画をしていく必要があります。**
- **できあがったイベントに招待するだけではなく、外国人住民がより主体的に関わる機会や特技を発揮できる場面をつくっていくことが大切です。**

いいね！5 「ゆるさ」って大事

地域における市民が
主体となる活動には
「結論ありき」も、
「完全な計画通り」も、
「こうあるべき」もありません。

その時の状況、その時の
メンバーの想いに
寄り添うことのできる

「ゆるさ」=柔軟さが、
関わる人たちの楽しさ、
そして主体的な参加へと
つながっています。

できる人ができることをする！疲れたら休む

ワールデン活動では、絶対に毎回の会議や活動に参加しなければいけないということもありません。参加の頻度や仕方は、参加者自身にゆだねられ、畑の作業やイベントの準備・実施なども、できる人ができることを考えて行います。参加することを強制されないので、メンバーも安心して活動に加わっています。

また、月に1度の合同作業やイベントなども、事前に申込みの必要はありません。参加者がどのくらい集まるのか当日までハラハラする部分はありますが、参加者にとっては気軽に参加できる場となっています。

また、通りすがりの人へも声をかけて、立ち寄ってもらったりすることもしばしば。「誰でもウェルカム！」で、気軽に安心して立ち寄ることのできる場づくりをしています。

気づいた人・できる人が、まずやってみる

ワールデン活動は、活動運営の大切な部分はみんなできちんと議論し、それ以外はメンバーそれぞれの自己裁量に任せる、という「ゆるさ」を持たせた活動になっています。

会議で決めたことだけを実行するのではなく、メンバーそれぞれが「よりよいワールデンにするためにやるといい」と考えたこと・気づいたことを実行してきました。

畑の草刈りや花の種まきといった作業から、外国人研修生を多く抱える地域の企業やご近所の外国人住民へ活動参加のお誘いに行くという広報活動も、気づいた人・できる人がまず自主的にやってみます。そして、それを会議の際に共有して、実行委員会全体で行った方がいいということになれば、以後の活動に反映させていきます。

「ゆるさ」＝「なんでもあり」ではない

事務局も当初の計画・想定通りではない展開の中でも、市民メンバーに寄り添い、地域のことを考えて対応する「ゆるさ」（＝柔軟さ）を発揮できたことで、多くの人が継続して関わる広がりを持った活動になってきました。

この「ゆるさ」の裏には、事務局内部や、市民と行政の間はもちろん、メンバー一人ひとりの間に信頼関係があり、また、密なコミュニケーションが取られていることがあります。

そして、「ゆるさ」は「なんでもあり」とは違います。プロジェクトがめざすところは明確に持ちながら、それを実現するためのプロセスに幅をもたせること、それが「ゆるさ」です。

「ゆるい」からこそ、ビジョンやプロジェクトの進行具合をみんなで確認・共有することがより大切

- **活動に「ゆるさ」を持たせ、一人ひとりの自主性や自己裁量に任せる部分が増えるからこそ、プロジェクトのめざしているビジョンや進捗状況をみんなで確認・共有することが大切になります。**
- **ワールデンプロジェクトでは、道具の使い方など基本的な「活動ルール」は作成しましたが、多文化共生の地域づくりのための活動は「3つの旗印」として柔軟に取り組めるよう設定しています。（⇒P. 39）**
- **実行委員会では、定期的にこれらをふりかえり、成果や活動計画を検討しています。**

いいね！6 農作業は地域づくりに向いている！

わたしたちが選んだツールは、
たまたま農作業・コミュニティ
ガーデンづくりでした。

多文化共生を前面に
打ち出すのではなく、

「みんなで農作業を
楽しんでいたら、
それが多文化共生の
地域づくりに
つながっていた！」

を目指しました。

多文化共生の地域づくりには、
もっといろいろな方法や場が
あればいいとおもっています。

おしゃべりしやすい環境と機会

そもそも屋外での活動は解放感がある上、会議室で机を挟んで向き合って交流するのとは違い、横並びで野菜や花の手入れをしながらの会話は、よりリラックスして他者と向き合うことができます。作業も草取りや種まきなどの単純作業がほとんどで、会話を楽しむ余裕もあります。

それに加え、天気や野菜の様子、野菜の調理方法や虫の名前…肩肘張らずに共有できる会話のネタは目の前にたくさん溢れています。ワールデンでは、そんな何気ない会話から、互いの文化や習慣を知り理解することにつながり、さらに暮らす地域のこと、日々の生活での困りごとへと話題が展開していきました。

若者や子どもたちにとって新鮮な体験

土に触れたり、時間をかけて、定期的に世話をしないといけない植物の栽培は、都市部で暮らす若い世代や子どもたちにとっては新鮮な体験となり、継続した活動参加につながりました。

また、「農作業を通して、植物や自然に触れる機会を楽しみたい」「子どもたちに体験してほしい」と考えている若い世代がいること、そしてそれは日本人だけではないということを活動の中で知ることができました。

共通の楽しみがたくさん生まれる

農作業には、「一緒に楽しめる」ことがたくさんあります。その一部を紹介します。

● 育てる！

一緒に作業をすること、また作業をしながらの会話を楽しむことができます。それぞれの国での野菜の名前や調理方法の話題から、収穫できたら各国の料理を作ってみようと会話も弾みました。

● 収穫する！

時間をかけて育てたものが、収穫物として手に入り、それをみんなで分けあったり、調理して楽しむことができます。収穫祭では、取れた野菜で、ブラジル料理やフィリピン料理にも挑戦しました。

● 食べる！

最後には一緒に食べることができる。食べ物があると会話も弾み、参加者同士の距離もぐっと縮まります。「食べる」という共通の楽しみがあるということが、継続した参加にもつながっています。

地域の特性や状況にあった方法を選ぶ

- **ワールデンでは、参加者が多文化共生を必要以上に意識せず、共通の楽しみがたくさん生まれるコミュニティガーデンづくりを行っていますが、どの地域でもコミュニティガーデンが作れるわけではありません。**
- **地域の特性や状況に適った方法や場を見出すことが大切です。まずは、地域に「あるもの」をふりかえってみましょう。**

いいね！ 7 非日常じゃなく「日常」

ここ数年
わたしたち日本人は

「日々の暮らし」
「あたりまえの生活」が
どれだけ大切で
しあわせなことなのか、
学んできた気がします。

日本人だけでなく
外国人住民も
未来を担う子どもたちも

そんな
「あたりまえの生活」ができる
地域を創りたいのです。

イベントはきっかけづくり

ワールデンでは、年に何回か楽しいイベントを行います。そうしたイベントにはたくさんの人が集まってくれます。

でも、これまでの活動をふりかえって手ごたえや成果を感じるとしたら、それは月１回続けてきた実行委員会や合同作業の中から生まれてきたものです。意見交換や作業の積み重ねで、少しずつ少しずつ、「ワールデン」が形になっているのです。

決して、イベントがダメなわけではありません。気軽に楽しく参加できるイベントは、参加の敷居を低くしますし、メンバーにとっても「目標」「メリハリ」「モチベーション」になります。イベントをきっかけにワールデンに参加してくれたメンバーもいます。

大切なのは、イベントを単発で終わらせずに、次につなげることでしょう。

「多文化共生」とは「安心できる日常」を創ること

そもそも「多文化共生」とは、いろいろな考え方、いろいろな文化、いろいろな背景をもつ人々が、お互いに理解し合い、共に安心して暮らしていくこと。それは外国人との間だけで考えることではなく、日本人同士でも、もしかしたら、家族の間でも考えなければいけないことです。「日常」のちょっとしたことに対して違和感や不満や疎外感を感じた時、私たちは「暮らしにくい」と感じてしまいます。

ワールデンでは、「多文化共生」を特別なことと捉えるのではなく、「安心して暮らせる地域づくり」の要素と捉えています。外国人にとって暮らしやすい地域は、日本人にとっても暮らしやすい地域なのです。

日常の積み重ねで育まれる信頼関係

ワールデンのプロジェクトを立ち上げたとき、わからないながらも多くの住民が参加してくれた理由の一つは、事務局に刈谷市が加わっていたこと、刈谷市の担当者と住民の間に「刈谷市が関わっているなら安心」という信頼関係ができていたことです。

また、『ワールド・スマイル・ガーデン一ツ木』（→P. 41）には、ブラジル人メンバーがいます。プロジェクトが始まる前は、街で見かけても話しかけたことがなかったという日本人メンバーたちが、今では、出会えばもちろん挨拶もしますし、何かあると「ブラジル人から見たらどう思うか、彼に聞いてみようよ」と仲間として厚い信頼を寄せています。

こうした信頼関係は、1回のイベントや特別に用意された場で築けるものではありません。時間をかけた日常の積み重ねで育まれるものです。そして、こうした信頼関係がなければ、地域づくりに取り組むことはできませんし、本当の意味で「多文化共生」の社会を創ることなどできないのではないでしょうか。

イベントで終わりではなく、イベントもプロセス！

- **きっかけはイベントでもOK。そこに参加した人がいかに継続的に活動できるか、日常的に関われるか、そのプロセスもあわせて企画しましょう。**

いいね！8 成果は「じゅわじゅわ」あらわれる

土地が見つかったとき
みんなで決めたことがありました。

「最低5年は
このプロジェクトを続けようね。」

地域づくりは
時間がかかるものです。

いろいろな人が協働するということは
時間がかかるものです。

あせらず、あわてず
じっくり、ゆっくり
1歩1歩を大切にしています。

「多文化共生」は一朝一夕に実現できない

1990年以降日本に住む外国人の数が急増し、「多文化共生」ということばが頻繁に使われるようになりました。でも、「多文化共生」は、外国人との交流だけを指すわけではありません。

国籍に関わらず、いろいろな考え方、いろいろな想い、いろいろな価値観、いろいろな背景を持つ人々みんなが暮らしやすい地域を創ることです。そのためには、次のことなどが大切です。

- 自分自身の生活をふりかえる
- 地域のことを知る
- どんな地域を創りたいのか考える
- それを共有する
- 実現のために行動する

だから、「多文化共生」はすぐにできるものではありません。じっくり取り組まなければ実現しないのです。

リソース×想い×時間＝ワールデン

ワールデンでは、だれか1人の発言で物事が決まることはありません。フラットな関係で、だれが何を言っても大丈夫！

考え、知識、スキル、経験や想いを共有し、とことん話し合い、形にしていくのです。いろいろなリソースを１つの形に創りあげていくためには、試行錯誤もあり、回り道もあり、１歩進んで2歩下がるなんてこともあり。でも、そのプロセスこそが「多文化共生」。

そのプロセスを組み立ててくれたのがNIED・国際理解教育センター。メンバーの想いをうまく引き出し、記録をまとめることで、目に見える形で残していきます。

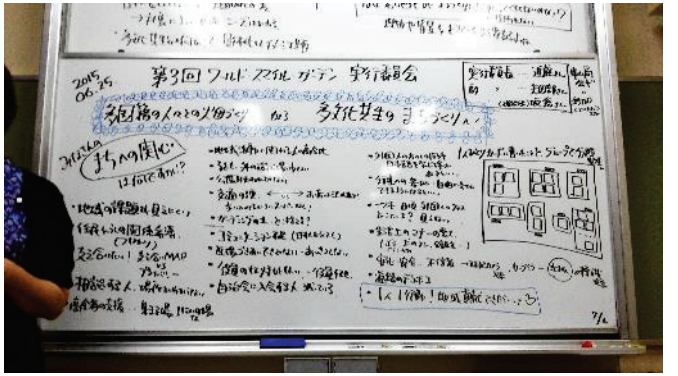
そうやって、時間をかけて積み上げたからこそ、納得のいく自慢のワールデンができあがりつつあるのです。

時間をかけて実感する成果

3年目を迎えるワールデン。今みんなで取り組んでいるのは、もっともっと多くの外国人住民に参加してもらうためにはどうすればいいか?立ち上げ当初は「はぁ? 多文化共生って何?」「刈谷って外国人住民、多いの? どこに住んでるの?」と言っていたメンバーから、次から次へと アイデアが出てきます。

今でも「多文化共生」なんてことばをふりかざそうものなら、「そんなこと言ってる暇あったら、草抜いて～」なんて言われそうですが、『ワールド・スマイル・ガーデン一ツ木』は、確実に多文化共生の意識をもった方たちの集まりになっています。

わたしたちはとかく、「きょうのイベントは何人集まった」「外国人は何人来た」という数字だけで成果を捉えがちですが、それと同じぐらい大切なのが質的な変化。なかなか目には見えませんが、じっくり時間をかけることによって得られる成果です。



成果をすぐに求めずに、プロセスを楽しもう！

- **地域づくりをするならば、あわてず、じっくり取り組むことがミソ。**
- **年度ごとに事業を組み立てなければいけない行政の弱みをおぎなってくれるのが、NPOやボランティアです。両者の強みを活かして、「時間をかけることができる」仕組みを考えましょう。**

いいね！9　多様性は豊かさ　多様性は強さ

「地域は多様な人々によって
支えられている」ということを
活動を続ける中で
確認しました。

「多様さ」は
見つけることでも、
集めることでもない。
もともと地域は多様なものです。

いろいろな背景や特技を
持った人たちが、互いに
活かしあいながら、
それぞれの違い・多様さを楽しみ、
認め合うことができると
もっと豊かで、
強い地域づくりに
つながると思います。

違いを強みにする

ワールデンには、いろいろな年代、いろいろな国籍や文化背景を持った人が集まっています。子どもとおとな、子育て世代からシルバー世代、ずっとこの地域で暮らしてきた人や新しく越してきた人、その中には日本人もいれば、外国にルーツを持つ人もいます。

一人ひとりがそれぞれの経験や価値観、習慣・文化の多様さを持っているので、ワールデンをより良くするために出てくるアイデアも様々です。畑作業の方法、イベントの内容、広報の方法など、それぞれいろいろな方法を考えることができます。

多様なアイデアを持ち寄る一人ひとりに違いがあることがワールデンの強みになっています。

違いから学ぶ

誰もが安心して集うことのできる場をめざすワールデンでは、できるかぎり無農薬での畑づくりに挑戦しています。

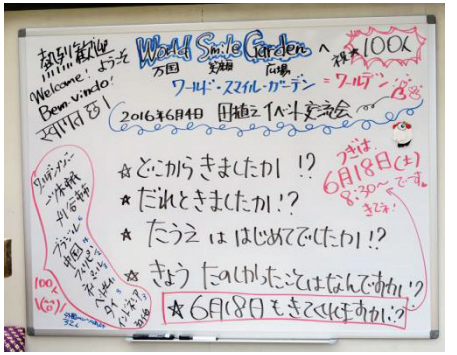
しかし、日々の作業の中心を担うメンバーが、ある会議の最後に「みんなに謝りたいことがある」と切り出し、畑の隅に除草剤を使用したことを告白しました。夏場は月一回の合同作業の草取りだけでは間に合わないうえ、できるだけきれいで立派な野菜が収穫できた方がメンバーのモチベーションにもつながると思うということが理由でした。背景には、野菜作りについての知識や経験、農薬について知っている情報等の差や、畑作業への関わり方（日々の作業量）などの違いがありました。

この出来事は、ワールデンについてのメンバーの多様な意見や想いに触れる機会になったほか、無農薬栽培の方法を調べたり、夏場の作業日の回数の見直しにつながりました。一人ひとり考え方も、知識の量も、関わり方も違うから、一緒に活動することでいろいろな発見があります。また、知らないことを教え合い、学び合うこともできます。

多様さが魅力になる

ワールデンには、1つのガーデンの中に畑・花壇・広場・田んぼと多様なフィールドがあります。1つの場でいろいろなことができると、それだけ関わる人々の特技を発揮できる場が増え、より多様な人の関心にそうことができます。

自分の想いをかたちにでき、関心ごとを追求できることが魅力となり、より多様な人々が集う場になっていきます。



「言葉」「文化」「心」3つの壁を越える手立てを見つける

- **多様な人が集う場には、「言葉の壁」、「文化の壁」、「心の壁」が存在します。**
- **ワールデンでは、ブラジル出身のメンバーや外国人リポーターが言葉や文化の壁を越えるサポートをしています。**
- **心の壁は、関わることで越えることができます。活動を始めたころは「こわい」と感じていたブラジル出身のメンバーとも、今では道で会えばあいさつをしあう関係になりました。**
- **また、バルーンアートなど、自分の特技を活かして交流するメンバーもいます。一人ひとりが、これらの壁を越えていくための手立てを持つことが大切です。**

いいね！ 10 信じれば叶う！あきらめたらおしまい

協働相手も、土地も、
ノウハウも何もなく、
ただただ担当者の
想いから始まった
ワールデンプロジェクト。

事務局にとっても、
市民にとっても、
これまでに経験のないことばかり。

できない理由は
簡単に見つかります。

でも、想いをもって
始めたプロジェクト。
信じて続ければ
かならず実現する!

そんな想いで活動を続けています。

まずは想いやアイデアを口に出すことから

想いやアイデアを口にして、共有しましょう。そして実現できる道を探してみる。実現するためのリソースを持っている人へ協力をお願いしてみることも大切です。

すぐに実現することもあれば、なかなか思うように進まないこともあります。でも、確かなことは、動いてみないと実現には近づかないということ。

はじめは無理そうに感じたことでも、ワールデンで実現してきたことはたくさん！右に挙げているのはほんの一部です。

「できない理由」ではなく「できる道」を探す

現在のワールデンになるまでに、いくつかの法律や制度の制約もクリアーしなくてはいけませんでした。制度に反しない方法を模索する中では、刈谷市が制度の詳細を調べたり、役所内部で関連部署との相談や調整を行ってくれた結果、マイタケハウスの設置やお借りしている土地の固定資産税の減免も実現しました。

活動を継続していく資金についても、いつまでも予算が確保できるわけではありません。まずは事務費を除いた活動経費をメンバーみんなで確認し、内容を精査することから始めました。時間をかけて検討を重ねた結果、市民メンバーによる任意団体を立ち上げることになりました。任意団体となることで、各種助成金の申請を試みたり、地域から寄付を募ることも可能になりました。

少し無茶にも思えるアイデアや想いに対しても、実現可能な方法の提案ができたのは、「制度的に難しい」「お金がないからできない」ではなく、「お金はないけれどやれることをやろう! 」「実現可能な道を探ろう! 」という姿勢があったから。

それぞれの実現したい想いと、それを阻む制度や状況などを隠さず正直に話し合うことで、みんなで「できる方法を探す」雰囲気をつくってくることができました。

<想いから実現した自慢のアイデア例>

- 開園する土地が見つかった！
- 初めての収穫祭で、外国につながりのある5ヵ国の参加者を含む100名以上が集まった！
- マイタケハウスや雨水利用など、設備の充実！
- 地区運動会へ「多文化共生チーム」として参加！
- 花壇のシンボルツリーを飾って、クリスマス会の開催！
- ピザ釜を使ってピザパーティー！

やめない！あきらめない！　ひとりで背負い込まない！

試行錯誤を繰り返し、停滞や遠回りをしても、ポジティブに実現可能性を探り、一つひとつ想いを実現しながら、多文化共生の地域づくりを進めているのがワールデンプロジェクトです。

「新しいこと」は、そう簡単に思うようには進まないものです。また、立ち上げることよりも、継続していくこと、地域住民や次世代へ引き継いでいくことは、エネルギーも時間もかかります。

それでも、同じ想いを持ち、時には「疲れちゃった!」と弱音をはける仲間がいれば、きっと実現できるのです。

多文化共生の地域づくりの醍醐味を味わう

- **「できるか、できないか」より「何がしたいか」「どんな地域を創りたいか」を大切にしましょう。**
- **「地域を創る」「地域を変える」ことは簡単ではありません。想いを同じにする信頼できる仲間と楽しみながら、困難と思えることにもチャレンジする。それでこそ、「愛着と誇りのもてる地域」になるのです。**

広場組の力作

▼ 実行委員の中でDIYが得意なメンバーが集まった「ワールデン広場組」による工作物の数々です。

▲マイタケハウス、各種ベンチ（白色）

▲各種テーブル

▲雨水タンク、水場

▲掲示板、階段

▲看板／据え付けベンチ

▲倉庫／肥料置き場

▲レイズドベッド、階段からマイタケハウスまでの導線

▲堆肥づくり場

▲パーゴラ

▲ロケットストーブ

▲巣箱／銘板

▲花　壇

第３章　未来につなぐ

STEP6　発展継続「どうやって地域に根付く持続可能な活動にしていくか」

10年後のワールデン こうしたい！夢

STEP6 発展継続

「どうやって地域に根付く持続可能な活動にしていくか」

- ✔ 自主的主体的な地域活動はどうあるといい？
- ✔ 自主的主体的な地域活動にするために必要なものは？
- ✔ 地域に根付いていくプロセスとポイントは？

米作りにチャレンジ、組織も立ち上げ、ただ今発展進行中！

新たなチャレンジ！ ワールデン活動 3つの旗印と米作り

収穫祭やメンバーの声がけをきっかけに、近くの幼稚園のお母さんや子どもたちが合同作業に来てくれるようになり、ガーデンはますますにぎやかになりました。

実行委員会では、これまでの活動をふりかえり、課題を出し合うとともに、これからのビジョンを話し合いました。
「楽しい！」だけで終わってはいけない。
多文化共生の地域づくりにつなげなければ…ということで、
2014年度の最後にみんなで考えた「地域の3年後のビジョン」は次のことでした。

「地域で多様な国籍の人と豊かな関係性を築き、
ワールデンに多様な国籍の人が参画し定着化する。」

そしてそれを踏まえて、新たにワールデン活動の3つの旗印を掲げました。
国籍に関わらず、地域住民の次の3つの場となるようなワールデンにしよう!

(1) 地域の情報交換の場
(2) 防災&子どもの食育の場
(3) 老若男女・世代間の交流の場

そして、2015年には田んぼもお借りし、
米づくりにもチャレンジすることになりました。

課題は外国人住民の参加と定着・・・

とはいうものの、肝心の外国人住民がなかなか活動に参画してくれません。
収穫祭には来てくれても、そのあとが続かないのです。

似たような活動をしているグループのところに視察に行って話を聞いたり、
「外国人住民との関わり方・つながり方」と題した勉強会をしたり。

これぞという答えが出るわけではありませんが、
「あそこのアパートに外国人が住んでるみたいだから、声かけてみようか？」
「小学校にお願いして、外国籍の子どもたちに広報してもらったらどうだろう？」
「お祭りに外国人が来ていたから、ワールデンのことを話しておいたよ。」
「メンバー1人が1人ずつ友達を連れてこれるといいんだけどな。」

2年前は、「外国人住民っていったいどこに住んでるの？」と言っていたメンバーが、
いろいろなアイデアや情報を持ち寄ってくれます。

まだまだ課題はあるけれど、
みんなで一緒に地域のことを考えるこの時間、このプロセスに
わたしたちが目指す地域づくりの手ごたえを感じることができました。

2016年 住民主体の持続可能な活動をめざして、組織を立ち上げる！

ガーデンを開設して3年目となる2016年の目標は、
「持続可能な活動ができる体制をつくること」と
「外国人住民の参画を増やすこと」。

1つ目の目標である「地域住民による主体的かつ持続可能な活動」を目指して、
任意団体「ワールド・スマイル・ガーデンーツ木」を立ち上げることにしました。

これまで実行委員会の前には、刈谷市、NIED・国際理解教育センター、
愛知県国際交流協会の3者が集まり、事務局会議を行っていました。
3者で活動の進行状況を確認したり、実行委員会の議題を整理したり、
予算を考えたりする場でした。

すべての状況、すべての情報、すべてのプロセスを
関わる人みんなで共有することは、対等な協働関係を築く上で大切なことです。
そこで、「ワールド・スマイル・ガーデンーツ木」の代表1人・副代表2人も
事務局会議に加わりました。

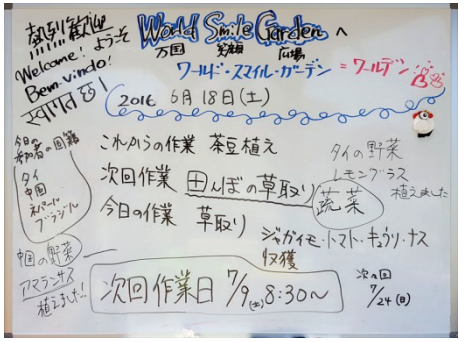
これまで愛知県国際交流協会や刈谷市が管理していた会計についても
住民の会計担当を決め、引き継ぎを図るとともに、
実行委員会では、予算の執行状況やイベントごとの支出見込みの確認を行い、
収支の見える化を図っています。

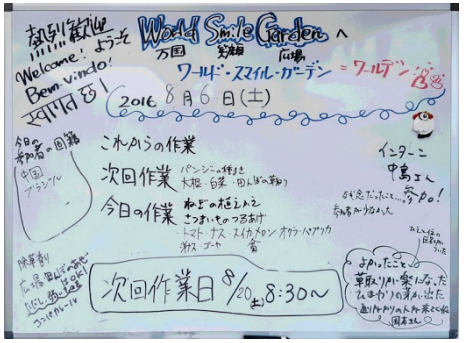
このように、少しずつ「ワールデンプロジェクトの運営」のすべてを
地域住民が担っていけるような体制を整えてきています。

外国人住民の参画を広げるための新たなアイデア！

2つめの目標「外国人を含めた地域住民の参画を広げる」ために、
合同作業のあと収穫物を味わったり、お茶を飲んだりしながら、
誰でも参加できるプチミーティングをすることにしました。

平日の夜の実行委員会にはなかなか出席できない住民もいるので、
気軽に意見を言えたり、企画に加わったりできる場を作ったのです。
作業内容の共有、次回の作業の確認、
前回の実行委員会の積み残し課題の検討など
マイタケハウスのホワイトボードに記録し、
写真を撮り、メーリングリストで共有しています。





さらに、もっと外国人住民に参画していただくため、
「外国人リポーター」をお願いしました。
これまで、一生懸命多言語のチラシを配布してきましたが、
なかなか思うように情報が届かない経験から
「くちコミ」に近い方法での情報発信をと考えたのです。

合同作業や実行委員会に参加してもらい、
その様子や感想などをフェイスブックで母語で発信してもらっています。
日本人とは少し異なる視点から書かれていて、
日本人住民にとっても気づきのある、楽しいレポートとなっています。

ワールド・スマイル・ガーデン／World Smile Gardenさん
が写真10件を追加しました。
2016年11月1日

平成28年10月16日　合同作業のリポート（日本語は下にあります）

10月16日，国际欢乐菜园子迎来了大丰收的日子。春天种下的秧苗已经完全成熟了，经过大家的辛勤劳动，收获到了稻米。除了稻米，菜园子的花生，红薯，四季豆都获得了大丰收。小朋友们也帮忙收获了很多红薯，拿着小铁锹从地里挖出红薯的那一刻她们都非常开心！
为了庆祝丰收祭，国际菜园子还举行了一个欢庆会，大家把收获的新鲜蔬菜做成料理，菜园子的大婶们还把菜园子种的洛神花做成了非常好吃的果酱，大家把果酱涂在面包上，吃上一口都说非常好吃，味道实在好极了！大家边劳动边交流，边吃边交流，非常开心。在这次收获的过程中我还向大家学到了很多知识，认识了新朋友，过了非常有意义的一上午。
11月5日国际欢乐菜园子又有联合活动，欢迎大家来参加！... もっと見る
翻訳を見る

ワールド・スマイル・ガーデン／World Smile Gardenさん
が1月13日の写真8件を追加しました。
1月13日

平成２９年１月９日　合同作業レポート（日本語は下にあります）

Feliz Ano Novo a todos!
Hoje, 9 de janeiro, foi o primeiro dia de trabalhos no Worlden.
Plantamos mudas e sementes de cebolinha, espinafre, ervilhas....
もっと見る
翻訳を見る

田んぼを２倍に広げ、地域の運動会にも参画し、ワールデンただいま発展進行中！

畑では、2016年もたくさんの野菜を収穫することができました。
田んぼは去年の2倍の面積に広げ、
300kgのお米を収穫し、その分寄付も増えました。

無農薬でとっても美味しい野菜と米です。
しかも、採りたては格別！ 収穫するたびに、採れたてを食べるたびに、
子どももおとなも、日本人も外国人もみんな笑顔になります。

「今度、この野菜作ってみない？」
「これを使ったハーブティー講座やってみない？」
「今年は、花壇、どんなテーマでお花を植える？」
「ピザ釜作って農園ピザパーティーがしたい！」
（これは2016年のクリスマス会で実現しました！）
やりたいことはまだまだたくさんあります。

地域のイベントにも積極的に参加します。
2016年は、自治会がメンバーとして関わってくれている強みを活かし、
一ツ木町の運動会に「多文化共生」チームとして参加しました。
「そんなイベントがあるなんて初めて知った」という外国人住民や、
「こんなに外国の方が住んでいらっしゃったのね」と驚きの日本人住民。

こうやって少しずつ距離が縮まっていくことに
ワールデンが貢献できたとしたらとても嬉しいこと。
活動を進める中には困難もあるけれど、
ピンチはチャンス！ みんなの智恵とチカラと愛情を持ち寄って
住民主体のワールド・スマイル・ガーデン、ただいま発展進行中！

クリスマス会の様子

2016年12月11日（日）に行われた合同作業&クリスマス会の様子です。

9:00～10:30
合同作業
植え付け･収穫など

→

10:30～11:00
お楽しみゲーム
ビンゴ･じゃんけん

→

11:00～12:00
お食事・談話タイム
五平餅･おでん･ピザ等

→

12:00～12:30
プレゼント
サンタ･交換会

クリスマス会事前準備と担当割

① アトラクションの進行・アナウンス：熊倉和
② メインツリーのかざりつけ：庄田、AIA
③ マイタケハウスのかざりつけ：庄田、小松
④ ビンゴゲーム機械借用：北浦
⑤ ゲームの進行：北浦、安井秀、熊倉和
⑥ サンタさん役：近藤
⑦ サンタさん衣装借用：石垣
⑧ おでん、おにぎり作り：石垣
⑨ おにぎり焼き作業：野々山、安井秀
⑩ BGM アンプ、マイク借用：近藤
⑪ クリスマスソングCD：AIA
⑫ 電源・コードリール用意：小松
⑬ ピザ釜設営：坂倉、酒井巳
⑭ ピザ購入：AIA
⑮ 子供用お菓子購入：小松
⑯ 現地安全確認（ピザ釜等・消火器）：小松
⑰ 飲み物準備：加藤
⑱ ケーブルテレビ対応：近藤

10年後のワールデン

近藤重光

イベントを定例化していて、黙っていても人が集まる場になっている。**子どももおとなも多様な国の人が集って畑作業**ができている。

参加者が増えて、みんな楽しく仲良し。**孫のさらちゃんもお手伝い**するようになっている。

アントゥネス・エジヴァウト

現在のつながりが広がり、活動を地道に続けている。「多文化共生」の実現をめざしながら、一ツ木のご近所付き合いの活性化へもつなぐことができている。外国の人たちにとって、**日本文化や日本語を知る機会・場**となっている。

畑和子

外国人も含め、より多くの人が集い、気軽に遊びに来れる場になっている。地域の一般の人たちにも、**もっとこの活動と場について知ってもらっている。**

安井勝義

坂倉聖児

幼稚園でのつながりなどを活かして、若い世代・子育て世代が中心となって、多様な国の人が集い、交流している。子どもたちにとっても、出会いの場となっていて、**ワールデンで知り合ったふたりが結婚**するなんてことになったらおもしろい。多国籍ガーデンができている。

こうしたい！夢 (1/3)

石川弘之

活動の輪が広がり、**みんなが積極的に参加している。**自分たちで育てた野菜の収穫を楽しんでいる。

もっといろいろな人が来ている。日頃から**ちょっと立ち寄って休憩したり、座っていける場**になっている。ワールデンが「一ツ木地区のもの」になっている。

小池ソニア

活動の企画を子どもたちがしていて、もっと楽しい活動になっている。もっと外国の人の参加が増えている。

近藤さん

土に触れることが楽しめるこの活動が、10年後も変わらず続いている。地域の人々にもっと浸透していて身近に感じられる場になっている。

子どもの参加者も増やしていって、**小さい頃から自然と地域に溶け込めるような場所**になっている。

酒井 肇

人々が知り合う場、気楽に来て、おしゃべりを楽しめる場となっている。**知立市でもコミュニティガーデンができていて、相互に交流**をしている。

佐藤さん

北浦 稔

矢田部寿子

活動が地域に根づき、**外国の人も含めて老若男女が集う場所**になっている。

10年後のワールデン

世界のいろいろな植物が集まっていて、**国ごとの有名な作物をブロックごとに作って**、違いを楽しんでいる。いま参加している子どもたちが育ち、畑作業の中心となっている。

劉 さん

安井秀秋

メンバーが、**どこで会ってもあいさつできる**ようなワールデン活動以外でもつながりのある関係ができている。

外国人の参加が増え、その中からリーダーとなる人が企画から関わっている。お父さんの参加がもっと増えて、今参加している若い世代や子どもたちが中心となって活動している。自分たちの世代も、できる限り参加し続けている。ワールデンが一ツ木の地域活動の中心に！

作物の収穫までのプロセスに多様な人たちが関わり、共に汗を流しながら、**すてきな育ち合い、支え合いの場**になっている。

平野木恵

一ツ木の憩いの場・サロン場になっていて、みんなが一緒に畑を楽しめている。孫が活動を続けている。**収穫物の即売ができる**ようになっている。

石垣玉江

小松芳昭

こうしたい！夢 (2/3)

みんなが仲良く作業していて、**子どもたちの遊びの場**になっている。外国の人ももっとたくさん参加している。

ローカスさん

もっと多様な人が集まり、**いろんな野菜や花を育てて、その収穫と食べることをみんなで楽しんでいる。**地域には土いじりが好きだけど土地がないという人たちもいる。そういう人の一部ではなくて、より多くの人が参加する場になっている。

石原さゑ子

多くの子どもたちが、地域のおとなたちと一緒になって、メンバーの一員として活動に参加し、楽しむことができている。

榊原彩音

一ツ木ワールデンをモデルに他の場所でもこのような多文化交流の場ができている。

熊倉克宏

今参加している人たちが続けて活動していて、もっと**多くの中学生や高校生が参加**している。

藤本さん

趙 セイ

まちのみんながワールデンを知っている。**外国の人たちは、ここで日本人と知り合い、**一緒に地域で楽しく暮らしている。

10年後のワールデン

異なる国籍の人同士は、言葉が壁になるけれど、ワールデンは、その壁を越え、みんなで野菜を育て、みんなで収穫して、みんなで採りたて野菜の料理を味わうことができる場になっている。同じ地域で暮らしている人たちと交流して、**畑以外で会っても挨拶しあえる友だちができる。**

近藤さん

野々山定弘

"全世界の縮図"のような、**多文化で多様な人の居場所**になっている。

熊倉和香

外国の人が気軽に来て、子どもたちとも交流している。**いろいろな情報交換の場**になっている。

みんなで楽しく集まる場所になっている。一ツ木が、**国籍に関わらずみんなが楽しく暮らせる地域に**なっていて、ワールデンがその中心になっている。

榊原幸子

町内の行事に国籍に関わらず、役員として積極的に参加している。個人同士、家族ぐるみの交流ができている。**お互いの国の言葉、情報等の勉強会を定期的に実施**している。ワールデンに常に交流できる場がある。行けば誰かに会える。茶など飲みながら話のできる憩いの場所。定例イベントが定着し、誰でも役員ができる。災害時等の緊急避難場所となっている。

酒井俊則

こうしたい！夢 (3/3)

庄田嘉宏

ワールデンに来て、農作業を通してあそぶのが楽しい！ということを若い世代に引き継いでいたい。農作業を通して、関わる人の変化も楽しい。設備の手入れを続けながら、アウトドア好きの人とか、新たな人が加わりやすい環境づくりができている。あそび心を大切に、ワールデンが**「おとなの遊園地」**になっている。

酒井己喜夫

みんなが仲良くいられる、その助けとなる場になっている。**いろいろな特技を持った人が集まってくる場**になっている。

【関心・尊重・互助】
誰もが、地域の住民に関心を持ち、それぞれの文化を大切にし、認めあい、助けあっている。

刈谷市国際化・多文化共生推進計画における「地域」の将来ビジョン（抜粋）

【出会い・交流・共有】
人々が交流する場があり、様々な国の文化と出会い、多様な情報を提供しあっている。

ワールデン's キッチン

ワールデンで収穫した野菜を使った美味しいお料理の数々。その中から手軽にできて美味しいレシピです。

パステル

材料

- パステル用生地
  （春巻き・餃子の皮、パイ生地でも代用可）
- ひき肉
- たまねぎ
- 油（揚げる用）

①ひき肉とたまねぎを炒め、塩、こしょうで味付けをする

②パステル用生地に炒めたひき肉を入れ、フォークの背を使って生地を閉じる

＊具材は、ハムやチーズ、ゆで卵やエビなど、何を入れてもOK。

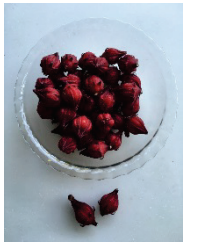
③中火で温めた低めの油できつね色になるまで揚げれば完成！

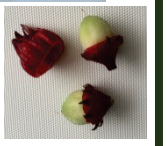
★ブラジルのファストフードで、具材や味付けは家庭によってさまざま！子どもたちとワイワイといろいろな具材を包むのも楽しい。

ローゼルジャム

材料

- ローゼルのガクとホウ（赤い部分）
- 砂糖　ローゼルの半量程度
- りんご　1個
- はちみつ　少々





①ローゼルのガクとホウを水洗いして水気を切る

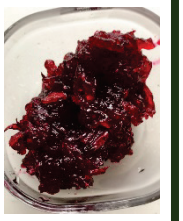
②りんごをすりおろす

③鍋やフライパンに①、砂糖、すりおろしたりんごを入れ、火にかける

④灰汁を取りながら焦げ付かないように弱火で煮詰め、とろみが出てきたらはちみつを加え完成！

＊砂糖の量はお好みに合わせて調整してください。はちみつは入れなくてもOK。

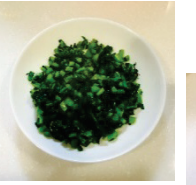
＊水の代わりにすりおろしたりんごを入れるのがポイント！甘さととろみが出ます。



大根の葉炒め

材料

- 大根の葉
- 塩（少量）
- サラダ油（適量）



①大根の葉はみじん切りにする

②フライパンを温める

③フライパンにサラダ油を入れて、大根の葉を入れる

④火が通ったら、塩をふり、水気がなくなるなるくらいまで炒め、火を止めれば、完成！

＊サラダ油でもゴマ油でもお好みに合わせてください

＊温かいご飯に混ぜると、大根の葉の混ぜご飯になります。

資　料　編

数字で見るワールデンの４年間

2016年度のワールデン

コミュニティガーデンの可能性

まだまだ妄想中！ワールデン・ドリーム

愛知県刈谷市一ツ木町はこんなところ

プロジェクトに協働・協力していただいた方々・メンバー

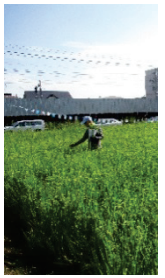
数字で見るワールデンの4年間

ワールデンプロジェクトの2013年度～2016年度の4年間または最新の実績を10の数字で表しました。

1 ワールデンの面積

約1,320㎡

・畑550㎡（約0.56反）
・田770㎡（約0.78反）
（田の1年目330㎡）



2 お米の収量

約450kg

・1年目は150kg（玄米）
（作付面積330㎡）
・2年目は300kg（玄米）
（作付面積770㎡）
・品種:あいちのかおり

3 参加者の国籍数

11カ国

日本

フィリピン

ブラジル

中国

韓国

ベトナム

ネパール

インドネシア

タイ

バングラデシュ

スペイン

4 実行委員の人数

37人

・2017年2月現在
・地域住民27人
・AIA・刈谷市・NIED 10人

5 ミーティングの回数

75回

・検討会・実行委員会32回
（各回20人前後が参加）
・事務局会議28回
・プチミーティング11回
・イベントチーム会4回

6 勉強会・視察の回数

11回

・勉強会9回…コミュニティガーデンとは／日進市の共同農園／市民と協働によるガーデンづくり／ガーデンのデザイン／花壇づくりのノウハウ／草花の選び方手入れの仕方／知多市の多文化共生の取組み／Facebookの使い方／フィリピン人組織の活動事例
・視察2回…美濃加茂市／三鷹市・武蔵野市

7 作った案山子の数

18体

・1年目8体

・2年目10体

8 栽培したお花やハーブの種類

約50種類

ビオラ、パンジー、葉牡丹、ストックマイム、
コスモス、チューリップ、アネモネ、ムスカリ、
ヒヤシンス、クロッカス、スイセン、ユリ、
クリスマスローズ、ツルニチニチソウ、
ヘリクリサム・ペティオラレ、グレコマ、
ディコンドラ、リシマキア・ヌンムラリア、
パゴバ、スミレ、アリッサム、オレンジスター、
なでしこ、スイートピー、シャングリラ、
レンゲ、プリムラ、ハツユキカズラ、
フウセンカズラ、アルメリア、イベリス、
ガーデンシクラメン、スサビオサ、
ストック、ダスティーミラー、アジュガ、
ゴールドライダー、ラナンキュラス、キンギョソウ、
スカシユリ、ひまわり、セージ、タイム、ペパーミント、
アップルミント、グレープフルーツミント、
パイナップルミント、チョコレートミント、
ヤマボウシ、ハナミズキ　など

9 合同作業＆イベントの延べ参加者数

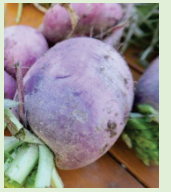
約1,000人

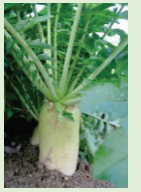
・2014年度～2016年度の3年間
・合同作業＆イベント13回、約700人
・合同作業26回、約300人
・イベントの内容…収穫祭／苗植え・種まき／田植え／稲刈り／収穫した野菜や米を使った料理（焼き芋、焼きおにぎり、ブラジル料理、ピザなど）／多国籍ガーデン開園／案山子づくり／防災グッズづくり／炊き出し体験／多文化クイズ／クリスマス会／地域運動会参加／おこしもん＆水餃子　など

10 栽培した野菜等の種類

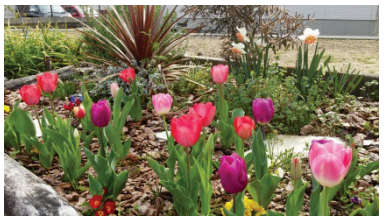
約70種類

・根菜類7種…大根、紫人参、白人参、ラディッシュ、じゃがいも、里芋、サツマイモ
・葉菜類30種…キャベツ、白菜、レタス、サニーレタス、ロメインレタス、小松菜、チンゲンサイ、ホウレン草、春菊、水菜、つみ菜、わけぎ、チコリ、西洋菜花、ねぎ、からし菜、アマランサス、ブロッコリー、カリフラワー、ロマネスコ、フェンネル、スティックセニョール、コールラビ、バジル、ルッコラ、イタリアンパセリ、アスパラガス、ニンニク、玉葱、ケール
・果菜類14種…トマト、ミニトマト、長なす、洋ナス、キュウリ、オクラ、トウモロコシ、パプリカ、ピーマン、トウガラシ、ゴーヤ、カボチャ、そうめんかぼちゃ、サトウキビ
・豆類7種…枝豆、茶豆、空豆、落花生、スナックエンドウ、小豆、フェイジョン
・果物類10種…スイカ、菊メロン、柑橘、レモン、ライム、みかん、ブラックベリー、ブルーベリー、苺、ローゼル
・きのこ類1種…マイタケ　など





２０１６年度のワールデン



	第1回		第2回		第3回
実行委員会	○2016年の年間計画とミーティングのあり方検討 ○2016年度の収支予算の検討		○多様な国籍の人に関わってもらう手立て検討 ○外国人リポーター設置紹介		○9～10月のイベントの立案・検討 ○2016年度予算の承認 ○本冊子についての意見交換
合同作業	田んぼのそうじ 夏野菜定植	田んぼの代掻き 夏野菜定植 夏用花壇	田植え 夏野菜収穫 中国・タイ野菜の播種	田んぼの草取り 夏野菜収穫 種まき	田んぼのヒエ取り 夏野菜収穫 植え替え・ツルあげ
収穫物					
	４月	５月	６月	７月	８月
イベント	懇親会	マイタケハウス 披露パーティ	多文化共生勉強会 田植え体験 収穫祭	プチ収穫祭	プチ収穫祭

	第4回 〇2ヶ月間の活動の共有 〇イモ掘り、クリスマス会の検討 〇本冊子についての意見交換		第5回 〇2ヶ月間の活動と支出の共有 〇1～2月に行うイベントの検討 〇本冊子についての意見交換		第６回 〇2016年度のふりかえり 〇2017年度のビジョン	
田んぼのヒエ取り 冬野菜定植	稲刈り 収穫籾の乾燥 籾すり・精米 種まき・定植	花壇に花植え 秋野菜収穫	秋野菜収穫 春野菜定植	春野菜の 種まき定植	田んぼの四隅起 草取り	草取り 春野菜収穫
９月	１０月	１１月	１２月	１月	２月	３月(予定)
案山子づくり プチ収穫祭	稲刈り 収穫祭 一ツ木町運動会	芋ほり 焼き芋大会	クリスマス会	プチ収穫祭	プチ収穫祭	スプリング フェスティバル

そもそも、コミュニティガーデンとは？

「コミュニティガーデン」とは、地域住民が主体となって、地域のために場所の選定から造成、維持管理までのすべてのプロセスを自主的な活動で支えているガーデンという「場」とその「活動」を指します。「共通の目的を持って協力し合って運営する」という点で、自分の区画の耕作が中心となる「市民農園」とは異なります。アメリカが発祥といわれ、欧米ではこのコミュニティガーデン活動が広く取り組まれており、世界大会なども定期的に開かれています。

コミュニティガーデンはこんな空間・場になることができます

世代や国籍を超えた出会いと会話、協働の場

いろいろな人が集まってくるコミュニティガーデン。一緒に作業をすることで、共通の話題もでき、会話がはずみます。
子どもも大人も国籍も関係なく、自由に参加できる空間です。

美しい景観と憩いを提供してくれる場

緑や心地よい木陰、花や野菜が実る様子に心が癒され、豊かでゆとりある気持ちになります。町が美しくなれば、治安もよくなり、安全にもつながります。

地域を活性化してくれる場

自分たちが作ったガーデンを通して、地域に対する愛着と誇りをもつことができます。人の行き来やつながりは地域を活性化してくれます。

環境問題や社会問題など学びの場

大人も子どもも、自然を楽しみながら環境について学んだり、地域のことを学んだりすることができます。
欧米では、障害者や問題を抱えた少年たちなどの居場所になるとともに社会復帰を応援する場にもなっています。

子どもたちの食育の場

野菜を育てる過程を通して、こどもやお母さんたちが「食べ物」について考える場にもなります。作業の中で、レシピの交換や試食などもでき、「食」の楽しさと大切さにも気づきます。

災害時は避難、情報交換の場

様々な人がつながるコミュニティガーデンは、災害時の拠点になります。
また、コミュニティガーデンを通して、地域のことを知ったり、地域の人たちと話をすることで、地域ぐるみで防災意識をもつことにもつながります。

参考になるウェブサイト・文献

- アメリカ コミュニティガーデニング協会（ACGA）
  https://communitygarden.org/
- Green Thumb（ニューヨーク公園局の下部組織で、コミュニティーガーデン活動を応援する公共団体）
  http://greenthumbnyc.org/
- 特定非営利活動法人 NPO birth（東京都を拠点に、人と自然と社会をつなぐ活動を支援する中間支援組織型のNPO）
  http://www.npo-birth.org/
- 『コミュニティガーデン 市民が進める緑のまちづくり』越川秀治著 学芸出版社
- 『英国の持続可能な地域づくり』中島恵理著 サスティナブル・コミュニティ研究所企画 学芸出版社

まだまだ妄想中！ワールデン・ドリーム

コミュニティガーデンの可能性を踏まえ、刈谷市、ＮＩＥＤ・国際理解教育センター、愛知県国際交流協会もそれぞれワールデンに夢を描いています。今後、実現に向けて、ワールド・スマイル・ガーデン一ツ木のメンバーや地域住民の皆さんと議論していこうと考えています。

愛知教育大学や近くの学校、刈谷市公園緑地課、教育委員会、刈谷市の農協、ボーイスカウト・ガールスカウト、おやじの会など刈谷市のさまざまな人たちを巻き込んでいく

現在の実行委員を中心に、若いママさんチーム、高校生チーム、小・中学生チームなど、多様な住民がそれぞれ企画をしてワールデンでプロジェクトを実施できるようになる

コミュニティカフェを実施し、ワールデンで収穫したハーブでハーブティーを飲みながら、オーガニックやフェアトレード、環境、世界とのつながりなどについてみんなで考えたり、お料理教室を実施する

日本の伝統文化、伝統料理などを学ぶ講座を実施する

ブラジルナイト、フィリピンデーなど外国人住民企画のイベントを実施する

青空日本語教室、ポルトガル語教室、中国語教室を実施する

日本全国から視察を受け入れ、全国のコミュニティとつながる

小・中学生が考えたイベントを実施し、大人を招待してもらう

春節祭やイースターなど、世界のさまざまなイベントをその国の人に教えてもらいながら体験する

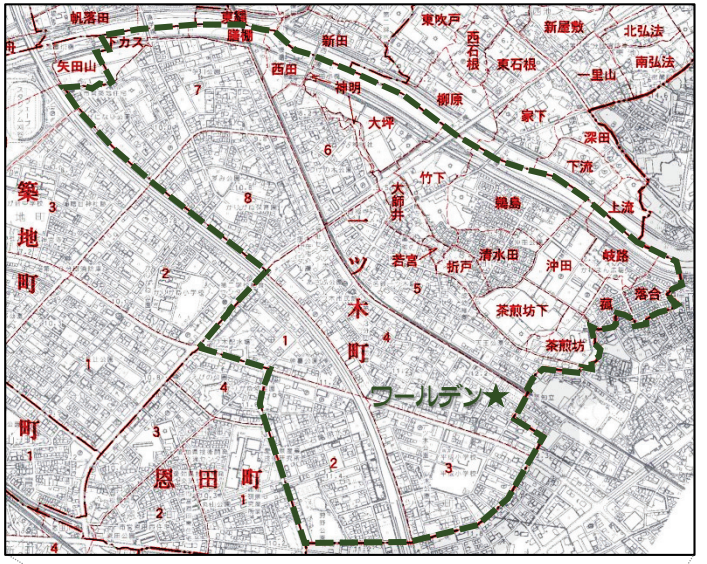
愛知県刈谷市 一ツ木町はこんなところ

刈谷市は愛知県のほぼ中央に位置しています。

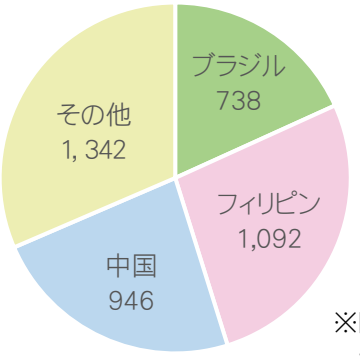
古くは刈谷城の城下町として栄え、現在は最先端技術を駆使した自動車関連産業の工場が多く立ち並ぶとともに、国の天然記念物に指定されたカキツバタ群落で有名な池や緑豊かな公園など、美しい自然と産業と文化が調和したものづくりのまちとして発展してきました。

2016年6月末現在、刈谷市の人口149, 993人のうち、外国人住民数は4, 078人（人口比2.71%）で、愛知県54市町村のうち12番目に多い地域です。

一ツ木町は、刈谷市の中でも外国人住民が最も多く住んでいる地域で、2012年3月策定の「刈谷市国際化・多文化共生推進計画」でモデル地域となっているところです。



● 刈谷市の外国人住民数



※図表はすべて
2017年1月現在

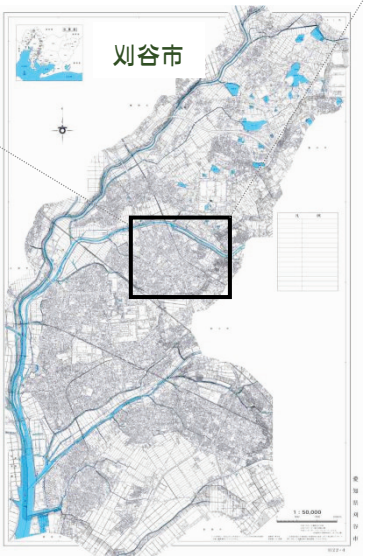
● 刈谷市の外国人住民が多い上位５町

順位	町名	外国人住民数
1	一ツ木町	364
2	野田町	361
3	小垣江町	338
4	築地町	259
5	井ヶ谷町	156

● 一ツ木町の外国人住民の国籍別内訳

国　　籍	人　　数
フィリピン	150
ブラジル	59
中国	50
韓国・朝鮮	44
スリランカ	23
ベトナム	17
ネパール	7
ペルー	4
モンゴル	3
インドネシア	3
タイ	2
トルコ	1
ミャンマー	1
合　　計	364

総人口比　3.4%



ワールデンのプロジェクトが始まる前の２０１３年に刈谷市が一ツ木町に住む16歳以上のすべての外国人273名を対象に行ったアンケートの結果は以下の通りでした。アンケートの結果、「現状では一ツ木町の日本人と外国人の関係は一部に限られているが、多くの外国人が『一ツ木町の人たちと交流したい』『一ツ木町のコミュニティに貢献したい』と思っている」ということがわかりました。アンケート結果の一部をご紹介します。

回収率 25%（68名）

国 籍
フィリピン 37名（54%）
中国 20名（29%）
ブラジル 7名（10%）
韓国・朝鮮 4名（6%）

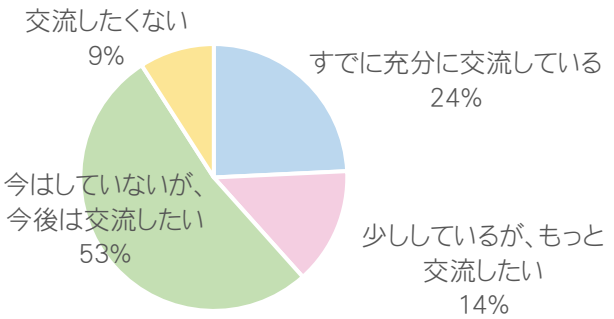
＊アンケート実施当時、一ツ木町に住む外国人住民は、フィリピン176名、ブラジル114名、中国46名、韓国・朝鮮20名、その他23名でした。

性 別 男 29名（43%） 女 38名（56%）

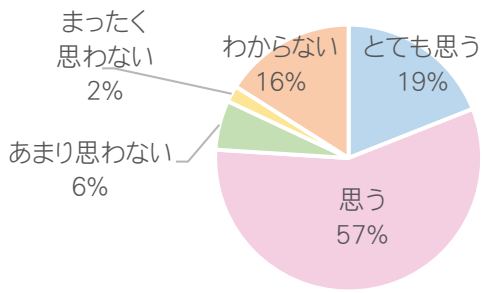
居住年数
5年未満 28名（41%）
5～10年未満 23名（34%）
10年以上 16名（23%）

定住意向 できる限り住み続けたい 50名（74%）

● 地域の人たちと交流したいと思いますか？



● 一ツ木町のコミュニティの一員として何か役に立ちたいと思いますか？



● どんな企画があるといいと思いますか？

◇ 外国人と日本人がお互いの文化や習慣を学び、楽しむ。
◇ 外国人と日本人が一緒に活動してふれあう。
◇ 外国人と日本人が、知り合い、おしゃべりをする。
◇ 同じ外国の外国人同士が知り合い、助け合えるようにする。
◇ 外国人の日本での暮らしを支える。
◇ 外国人が既存の活動に参加しやすくする。
◇ 外国人と日本人が、一緒に企画を考え、実施する。
◇ 外国人家庭と日本人家庭が、家族ぐるみの関係を育む。
など。

● 具体的にやりたいこと、貢献できそうなことは？

◇ 日本人と外国人が参加できるスポーツやバーベキューでの触れ合い。
◇ 同じ障害を持つ日本人と出会いたい。英語の手話を教え、日本語の手話を学びたい。
◇ いろいろな文化を教えてほしい。自分が教えられることは教えたい。
◇ 地区の祭りや運動会などのイベントに参加したい。
◇ 一ツ木町で日本人と外国人の友達を作り、一ツ木町の活動に自分の力を出したい。
◇ 中国語を学びたい日本人、外国人に教えたい。
◇ 一ツ木町の日本人と外国人が一緒になるコミュニティ。
◇ まだわからない。でも協力したい。
など。

プロジェクトに協働・協力していただいた方々・メンバー

（敬称略）

フォトジャーナリスト
大塚敦子

園芸福祉専門家
守屋保美

フィリピン人移住者センター(FMC)
ネストール・プノ

特定非営利活動法人
にっしん市民環境ネット
寺田裕美

特定非営利活動法人
コミュニティサポーター ほっぷ
加藤賀唯

愛知淑徳大学 名誉教授
榎田勝利

特定非営利活動法人
NPO birth
佐藤留美

ちたビジョンプロジェクト
竹内 綾
篠原小百合

特定非営利活動法人
多文化共生リソースセンター東海
河村槙子

ガーデンデザイナー
山本洋見

岐阜県美濃加茂市
多文化共生アグリ交流グループ

小池ソニア（外国人レポーター）

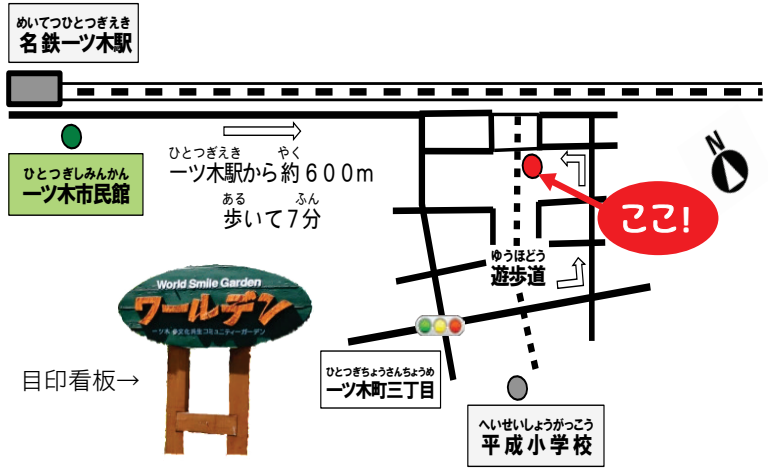
趙 セイ　（外国人レポーター）

特定非営利活動法人
NIED・国際理解教育センター

刈谷市
市民協働課

公益財団法人
愛知県国際交流協会

ワールド・スマイル・ガーデン



位置図

WorldSmileGarden

活動の様子

Facebook

◇ 平成小学校の北側の遊歩道沿いにある畑と田んぼで、
合同作業やイベントなどを行っています。

◇ 実行委員会は一ツ木市民館で行っています。

◇ 合同作業などの開催日や活動の様子については、
Facebook をご覧ください。

◇ 視察や活動についてのお問い合わせは、
ワールド・スマイル・ガーデン一ツ木のEメールにご連絡ください。
（ worldenhitotsugi@gmail.com ）

地域づくりを企画するためのアイデアＢ㊙☺Ｋ

ワールデン物語

～緑とやさしさを育む多文化共生コミュニティガーデン～

2017年2月

発　行　　公益財団法人　愛知県国際交流協会

〒460-0001
名古屋市中区三の丸2−6−1 あいち国際プラザ
TEL：(052)961−8746
Eメール：koryu@aia.pref.aichi.jp

編　集　　ＮＰＯ法人 NIED･国際理解教育センター

印刷・製本　　駒田印刷株式会社

※ この事業は、一般財団法人自治体国際化協会の助成事業により実施されています。